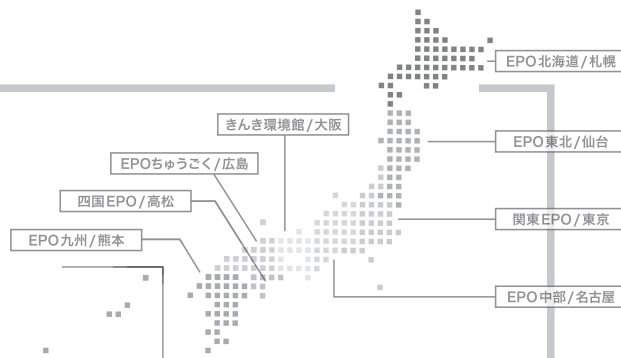


つながる EPO ネットワーク

全国 8 カ所に設置された
環境パートナーシップオフィス (EPO) の活動



地域循環共生圏の主流化に向けて

常川真由美 (環境省四国環境パートナーシップオフィス)

全国各地で気象災害が頻発している。自然の猛威を前に、私たちは大いなる自然の中で生かされ、その中で成り立つ社会で生きていることを実感する。本来、身近にあるはずの自然は至る所で寸断されてしまった。今のライフスタイルはあとどれだけ続けられるのか、未来に向けてどう自然と共生するのか、今まさに課題が突きつけられている。

2013年に始まった「つなげよう、支えよう、森里川海」の取組がある。2015年6月に発表された中間とり



平成29年度四国地域における森里川海流域連携実践者による環境課題解決に向けた情報交換会課題・事例集

まとめで示された考え方や方向性を知らせるため、全国でリレーフォーラムが開催された。四国EPOは、四国四県で開催したシンポジウムやミニフォーラムにおいて、主催や共催として関わり、展示やコーディネーターなど、さまざまな形で取組推進に関わった。その際、徳島県の勝浦川流域や香川県の里海プロジェクト、愛媛県の南予地域、高知県の物部川流域の団体や関係者をはじめ多くの方に協力いただいた。これらの地域では、今も過疎や高齢化、担い手不足といった深刻な社会課題に直面しつつも流域の自然環境保全に粘り強く取り組まれており、今後の展開を応援したいと考えている。流域連携と言ってしまうと簡単だが、多様な主体が流域で協働するために、キーマンとなる関係者は合意形成や場づ

くりを奔走していた。時間と労力がどれだけかかるのか、皆さんとの関わりで目の当りにした。

2018年10月、物部川21世紀の森と水の会や三嶺の森を守るみんなの会らの協力を得て、物部川の森里川海流域シンポジウム-モノ・ヒト・コトでつながるレジリエントな地域づくり~を開催した。地域課題解決に向けて、一歩ずつではあるが、流域を点から線、面へとつなげ、「四国の水」でつながる「地域循環共生圏」を広げたい。

環境省四国環境パートナーシップオフィス (四国 EPO)

特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク理事
高知県生まれ。大学卒業後、タイで植林・村落開発ボランティアに参加。帰国後、地域計画コンサルタント会社に就職、起業・会社経営等を経て現在に至る。

つな環

第32号

2018年11月発行

編集・発行：地球環境パートナーシッププラザ
<http://www.geoc.jp/>
〒150-0001
東京都渋谷区神宮前5-53-70国連大学1F
Tel. 03-3407-8107 Fax. 03-3407-8164
開館時間：10:00～18:00(火～金曜)
セミナー開催時は21:00まで
10:00～17:00(土曜)
休館日：日曜・月曜・祝日・年末年始

関東地方環境パートナーシップオフィス(関東EPO)
〒150-0001
東京都渋谷区神宮前5-53-67コスモス青山B1F
Tel. 03-3406-5180 Fax. 03-3406-5064
業務時間：10:00～18:00
休業日：土曜、日曜、祝日、年末年始

デザイン：安食正之(北路社)
印刷：光写真印刷株式会社

GEOC/EPOからのお知らせ

GEOCでは「コロンブスの卵リレートーク～2050年の社会を創造する社会課題解決型ビジネス等身大の社会変革にチャレンジ～」を8月から開催しています。全10回シリーズの連続企画として実施し、次世代の担い人として社会課題解決に挑む社会起業家がゲストスピーカーとして登壇します。社会課題解決に対する情熱、起業のきっかけ、社会変革を目指すためのヒントを見つけに来ませんか。GEOCホームページにて、最新のリレートークのご案内と参加申込みを受け付けています。



つな環編集部

星野智子、尾山優子、山口史子、江口健介、藤本亜子、村尾幸太、今井麻希子(順不同)

つな環

検索

「つな環」はインターネットからもご覧いただけます。
<http://www.geoc.jp/information/tsunakan>